

評議員会で令和7年度の事業報告及び決算が承認されました

6月21日(日)午前10時から第35回社会福祉法人はばたき福祉事業団評議員会が開催され、令和7年度の事業報告及び決算が承認されました。なお、3月20日(金)の理事会では、令和8年度の事業計画及び予算も承認されました。

また、皆様から頂戴いたしました令和7年度の賛助会費は1,993,000円、寄付金は2,321,740円でした。はばたきへの多大なるご理解とご支援、本当にありがとうございました。今年度も、引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。

令和7年度 決算書 資金収支計算書

（自）令和7年4月1日 （至）令和8年3月31日		（単位円）			
勘定科目		社会福祉事業	公益事業	合計	
事業活動による収支	収入	相談事業収入	80,190,842	3,250,000	83,440,842
		調査研究事業収入	0	19,900,000	19,900,000
		経常経費寄附金収入	2,321,740	0	2,321,740
		受取利息配当金収入	495,840	27,368	523,208
		その他の収入	2,843,658	0	2,843,658
	事業活動収入計(1)	85,852,080	23,177,368	109,029,448	
	支出	人件費支出	27,079,654	8,513,784	35,593,438
		事業費支出	5,407,651	2,299,085	7,706,736
		事務費支出	45,082,414	11,742,988	56,825,402
		事業活動支出計(2)	77,569,719	22,555,857	100,125,576
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		8,282,361	621,511	8,903,872	
に施設整備等	収入	施設整備等収入計(4)	0	0	0
		固定資産取得支出	2,661,560	597,700	3,259,260
	支出	施設整備等支出計(5)	2,661,560	597,700	3,259,260
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△2,661,560	△597,700	△3,259,260
その他の活動	収入	積立資産取崩収入	0	0	0
		その他の活動収入計(7)	0	0	0
	支出	積立資産支出	2,000,000	0	2,000,000
		その他の活動支出計(8)	2,000,000	0	2,000,000
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△2,000,000	0	△2,000,000		
予備費支出(10)	0	0	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	3,620,801	23,811	3,644,612		
前期末支払資金残高(12)	11,922,368	14,537,825	26,460,193		
当期末支払資金残高(11)+(12)	15,543,169	14,561,636	30,104,805		

令和8年度 予算書 資金収支予算書

（自）令和8年4月1日 （至）令和9年3月31日		（単位円）			
勘定科目		社会福祉事業	公益事業	合計	
事業活動による収支	収入	相談事業収入	79,859,500	3,250,000	83,109,500
		調査研究事業収入	0	19,770,000	19,770,000
		賛助会費収入	2,500,000	0	2,500,000
		経常経費寄附金収入	3,000,000	0	3,000,000
		受取利息配当金収入	500,000	30,000	530,000
	その他の収入	700,000	0	700,000	
	事業活動収入計(1)	86,559,500	23,050,000	109,609,500	
	支出	人件費支出	30,478,180	8,730,000	39,208,180
		事業費支出	5,067,507	2,380,000	7,447,507
		事務費支出	44,937,313	11,710,000	56,647,313
事業活動支出計(2)		80,483,000	22,820,000	103,303,000	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		6,076,500	230,000	6,306,500	
収等施設に設置する備	収入	施設整備等収入計(4)	0	0	0
		固定資産取得支出	500,000	200,000	700,000
	支出	施設整備等支出計(5)	500,000	200,000	700,000
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△500,000	△200,000	△700,000	
にその他の活動	収入	積立資産取崩収入	0	0	0
		サービス区分間繰入金収入	934,500	0	934,500
		その他の活動収入計(7)	934,500	0	934,500
	支出	積立資産支出	2,000,000	0	2,000,000
		サービス区分間繰入金支出	934,500	0	934,500
		その他の活動支出計(8)	2,934,500	0	2,934,500
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△2,000,000	0	△2,000,000		
予備費(10)	500,000	0	500,000		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	3,076,500	30,000	3,106,500		
前期末支払資金残高(12)	16,497,336	14,555,428	31,052,764		
当期末支払資金残高(11)+(12)	19,573,836	14,585,428	34,159,264		

はばたき福祉事業団の活動は、拠出金や補助金、助成金などで運営されています。しかし、運営費用は年々厳しさを増してきており、経費節減の努力を最大限にしておりますが、事業を安定的に取り組み、被害者を永続的に救済していくためには、多くの方からのご寄附、賛助金等のご支援が不可欠です。

はばたき福祉事業団は平成23年11月1日に税額控除対象法人となり、はばたき福祉事業団へのご寄附は、以下のように税制上の優遇措置の対象となります。

<個人によるご寄附>

所得控除と税額控除のうち有利な方を選べます。税額控除は税額から直接控除額を差し引きますので所得控除と比べて減税効果が大きく、寄附者に大きなメリットになります。

<法人によるご寄附>

一般寄附金の損金算入限度額とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で損金として算入できます。ぜひとも暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人はばたき福祉事業団 Social Welfare Project HABATAKI Welfare Project

- 東京本部 〒162-0814 新宿区新小川町9番20号 新小川町ビル5F
TEL 03-5228-1200 FAX 03-5227-7126
- 北海道支部 〒064-0805 札幌市中央区南5条西10丁目 サンハイツ南5条1005号
TEL/FAX 011-551-4439
- 東北支部 〒980-0812 仙台市青葉区片平1丁目2-38
チサンマンション青葉通り905号 花咲み法律事務所
TEL/FAX 022-215-0303
- 中部支部 〒460-0003 名古屋市中区錦2丁目4-3 錦パークビル2階 さくら総合法律事務所気付
TEL 052-265-6663
- 九州支部 〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-2-5 東峰マンション第一西公園303号
TEL/FAX 092-717-6329

【郵便振替】
口座番号：00130-4-409457
名義：社会福祉法人はばたき福祉事業団
【クレジットカード】
QRコードからお申し込みください。



Habataki

2026年7月1日 発行
第80号
社会福祉法人
はばたき福祉事業団
〒162-0814
東京都新宿区新小川町9番20号
新小川町ビル5F
TEL 03-5228-1200
FAX 03-5227-7126
http://www.habataki-fukushi.jp/

生きる力を高め、医療福祉を創造するはばたき福祉事業団
患者が変われば、医療は変わる

暑中お見舞い申し上げます

梅雨明けが待たれる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？今年の夏も例年以上の暑さが予想されます。どうぞ熱中症などにお気をつけいただき、健やかに過ごしてください。

早くも今年度の4分の1が過ぎました。はばたき福祉事業団のスタッフは、長期療養研究班の聞き取り調査で全国の患者に話を伺い、遺族相互支援事業を通じて遺族が暑い夏を乗り切るための贈り物の準備を進めています。今後は、リハビリ検診会やコンサートなどの事業も進めていきます。

そして、8月30日には、社会福祉法人化20周年となります。はばたきとして、大きな節目となるこの夏も全力で事業に取り組んでいきますので、今後とも皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。



頼れる人がいない不安

患者の現状と、遺族を含めた被害者に求められる支援

HIV感染血友病等患者の高齢化と病態の悪化が進む中、地域で安心・安全に暮らし続けるための支援体制づくりが急務となっています。当事業団では、2026年に実施した質問紙調査（有効回答198名、回収率46.8%）とインタビュー調査（6名）をもとに、患者の日常生活の現状と課題を分析しました。中間解析の結果をお知らせします。

その結果、配偶者も子どももない「Kinless層」が患者全体の約半数を占めることが分かりました。この層は配偶者か子どもがいる「非Kinless層」に比べて、入院時に身元保証人をすぐ依頼できない割合が高く（身元保証人を依頼できない「Kinless層」14.6%、依頼できる「非Kinless層」5.5%）、相談をためらう要因も有意に多く抱えていました。背景には、頼れる身内がないという「社会的孤立」と、「偏見・差別を受けるのではないか」という恐れなどから必要な支援を受けにくい「心理的孤立」という、二重の困難があります。インタビューからも、親亡き後や施設入所への不安が浮かび上がりました。

緊急時や将来の支えを高齢の親や同世代の親族に頼る現状は、将来的に崩れるリスクが高いといえます。今後は、状況を整理し必要な支援につなぐ伴走支援者の整備とともに、民間サービスなど代替支援の費用負担を軽減する枠組みが必要です。家族の有無に左右されないセーフティネットの構築と、安心して相談できる環境の整備が求められます。

また、入院時の身元保証や施設入所は、遺族も抱えている課題です。今回調査結果をもとに、遺族も含めた被害者全体の喫緊の課題として、国に必要な対策を要望していきます。

中核拠点病院の薬害 HIV 感染被害者への支援体制強化のために MSW 及び心理職へのインタビュー実施

被害者の課題の一つに通院困難があります。一昨年はばたき福祉事業団で行った調査では、平均片道通院時間は、ACC 通院患者は 94.6 分、ブロック拠点病院は 64.1 分となっています。一方で、中核、拠点、拠点以外の病院は 60 分未満となっており、より良い医療を受けるためには、遠方の ACC、ブロック拠点まで通院しなければいけないという傾向がうかがえます。

今後、高齢化と体調悪化が進み、自力での通院が困難になると、自分が暮らす地域の病院に転院する患者が増えてくることが予想されます。そうなった場合、地域の医療福祉を支える役割として期待されるのが中核拠点病院です。

ただ、中核拠点病院は国からの特別な補助があるわけではなく、医療スタッフも被害者特有の医療や福祉に詳しいとは限りません。

そこで、今年度は中核拠点病院における薬害 HIV 感染被害者への支援体制の現状把握と強化方策について、調査を行うことになりました。具体的には、医療ソーシャルワーカー及び心理職を対象に、フォーカスグループインタビューを行います。中核拠点病院における薬害 HIV 感染被害者への支援体制の現状把握と強化方策について、調査を行うことになりました。調査を通じて、今後の被害者への支援体制の現状と課題を把握し、改善に役立てたいと考えています。

第 21 回はばたきメモリアルコンサート 今回もワグネルによるオーケストラ演奏を行います

第 21 回はばたきメモリアルコンサートを 10 月 16 日（金）に王子ホールにて開催します。出演は、前回に引き続きコンサートマスターであり、ヴァイオリンの水島愛子さん、慶應義塾ワグネル・ソサイエティ・オーケストラ、そして新たにヴァイオリンの高橋宗芳さんも迎えます。演奏はモーツァルトやワーグナーの曲を予定しています。今回も迫力あるオーケストラの演奏をお楽しみください。



手作りグッズは今回も秀逸。当日までお楽しみに！

また、毎回好評の被害者による合唱も行います。3 月の和解記念集会での合唱の後、メンバーは 10 月に向けて再始動し、練習に励んでいます。そして、ご寄附を頂戴した方にお渡ししている遺族による手作りグッズも作成中です。その一部を写真でご紹介いたします。こちらもぜひお楽しみにして下さい。

十分な支援を受けるためには、患者自らの意思で将来を見据えた選択を行い、生活や福祉、治療に関する決定を自ら行うことは重要です。重要な意思決定を患者自らできるように、この調査を進めていきたいと思えます。



●日時：2026 年 10 月 16 日（金）18 時 30 分～20 時 30 分

●開催：王子ホール（中央区銀座 4 丁目 7-5）

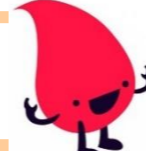
ホームページ「みんなで考える血友病診療ネット」 保因者の LINE 相談も行っています

はばたき福祉事業団は、自治医大の大森司教授が研究代表を務める「血友病が抱える課題の解決を目指した新規治療法・診療体制の創出」研究班（研究代表：自治医科大学大森司教授）の分担研究を担っており、「みんなで考える血友病診療ネット」というホームページを運営しております。

このホームページでは、「血友病保因者相談室」という LINE 相談を行っています。保因者は患者ではないため、病院につながりにくく、相談する場がないということで、潜在的にも困っている方が多くいます。そこで、この LINE 相談を立ち上げて、保因者対象の相談を始めました。


保因に関する悩みを抱えている方からの相談は予想より多く、中には父が実は薬害被害者で、ご本人が子どもの頃に亡くなっており、血友病が A か B かも不明で、保因についてもほぼ知らされておらず、結婚、出産を控えて相談をしてきた方もいました。

こうしたお悩みには、研究班の先生方からの専門的的確なアドバイスをお返しし、医療機関につなぐなど支援をしています。他にも、血友病患者や保因者へのインタビューや Q&A 集などもありますので、患者・家族や保因者の方、医療者の方もぜひアクセスしてください。



●みんなで考える血友病診療ネット

<https://hemophilia-next.jp/>



国内外の市民社会や医師、研究者らが熱い議論 日本の HIV 検査アクセスと郵送検査の課題と対策

6 月 17 日（水）ヒルトン東京に於いて「実装科学入門：参加型ワークショップ」に本部・柿沼章子と北海道支部・沼田栗実が参加しました。参加者の内訳は、海外から 17 名、国内から 21 名（うち市民社会 9 名、医師・研究者 9 名、学生 3 名）、オブザーバー 11 名の 50 名でした。



「サークルさっぽろ」の運営や HIV 流行終結実現に取り組んでいるはばたきスタッフも議論に参加しました

国内外の HIV 検査等に関する講演と『日本における HIV 検査アクセスと郵送検査の課題』について 6 つのグループに分かれディスカッションを行いました。

各国では郵送検査の他、オーラル検査、尿検査など実施されていること、また検査アクセスを高めるため SNS 等の活用の情報交換をし、日本の検査アクセスと郵送検査の課題を整理し対策を考えました。課題としては HIV/AIDS への偏見差別、疾患の正しい知識や HIV 検査の情報提供不足等があげられ、対策として教育啓発、国や自治体の積極的な施策の実施、そして CBO との連携や費用創出、SNS の有効な活用があげられました。このような国内外の関係者との機会を通し 2030 年までの HIV 感染流行終結の実現に向けて取り組んでいきます。